

会 議 録

会議の名称	第4回鴻巣市総合振興計画審議会
開催日	令和3年10月28日(木)
開催時間	午前10時00分 開会 ・ 午前12時00分 閉会
開催場所	鴻巣市役所 大会議室
会長	会長 酒巻 貞夫
出席者(委員)氏名 (出席者数)	酒巻 貞夫(会長) 田尻 要(副会長) 太田 恭子 齋藤 義夫 櫻井 利男 澤近 幸子 竹中 健司 吉田 全利 須田 愛子 竹下 和男 林 繁雄 渡辺 千鶴 山内 梨花(13名)
欠席者(委員)氏名 (欠席者数)	中村 憲子 小川 健 (2名)
事務局職員職氏名	市長政策室長 佐々木 紀演 市長政策室副室長 藤崎 秀也 市長政策室参事兼総合政策課長 武田 昌行 総合政策課副課長 高田 史 総合政策課主幹 黒巢 弘路 総合政策課主査 羽鳥 敦 総合政策課副主査 河野 崇 総合政策課主任 大島 悠志
傍聴者の可否(傍聴者数)	可(0名)
会 議 次 第	<p>1 開 会</p> <p>2 会長あいさつ</p> <p>3 議 事 (1) 第6次鴻巣市総合振興計画後期基本計画(案)について</p> <p>4 その他</p> <p>5 閉 会</p>

<p>会議の内容</p>	<p>第6次鴻巣市総合振興計画後期基本計画（案）について</p> <p>資料1について事務局から説明し、基本構想の変更（後期基本計画における政策展開の方向）は市議会9月定例会において議決されたことを報告した。</p> <p>後期基本計画（案）のうち、前期からの主な変更点となる以下の施策について、分科会形式で審議を行った。</p> <p>①政策1 子育てと教育の連携強化</p> <p>②政策2・6 新型コロナへの対応とDXの推進</p> <p>③政策3 防災・減災への対応、脱炭素社会の形成</p> <p>④政策4・5 花・緑・コウノトリ（生物多様性）、観光・交流</p> <p>後期計画期間における取組の方向性や成果指標の考え方について、各施策の担当課長からの説明に対し、委員からの主な意見は以下のとおり。</p> <p>分科会①</p> <p>○施策1-1 出産・子育て支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「子育てをしやすいと思う保護者の割合」を測るための市民アンケートでは、対象とする保護者を「中学生以下」だけではなく高校生の子どもを持つ保護者も含んだ方が良いのではないか。 ・子育て世帯の転入超過傾向が続いていることから、出生だけではなく転入してきた子どもも含めた成果指標として「合計特殊出生率」を「年少人口」に改めることは妥当である。 <p>○施策1-3 青少年の健全育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放課後児童クラブは、学校施設を利用しているところとそうでないところがある。市としての方向性は。 <ul style="list-style-type: none"> ← 子どもの安全などを考慮し学校の余裕教室の利用を進めているが、施設管理や適当な教室の有無により鴻巣市として統一はできていない。民営クラブとの連携により、待機児童も0人を維持できている。 ・地域の人が多く関わる放課後子ども教室の活動を通して、教員・支援員・地域の方の連携が重要だと考える。 ・発達段階における気になる子への対応では、各校のいきいき先生がきめ細かく対応しているが、負担が大きくなっている。一人一人の児童・生徒に寄り添った対応を行うため、関係者間の連携をさらに強化していく必要がある。 ・小学生までを対象とした事業に比べ、中学生向けの事業が少なく感じる。中学生は学校授業や部活が中心であるのは理解しているが、市として配慮が必要ではないか。 ・鴻巣市のヤングケアラーへの対応は。 <ul style="list-style-type: none"> ← ヤングケアラーの啓発を兼ねて小学校4年生以上を対象にアンケート調査を行う。 ・「思いやりアンケート」では子どもが本音を書かないことがあると感じている。すべての子どもたちが、本音を正直に書けるよう学習用端末の活用などと併せて検討していただきたい。
--------------	--

分科会②

○施策 2-1 健康づくりの推進

- ・新型コロナウイルス感染症対策については、今後、新たな感染症に対する基礎的な対応となると考える。
- ・新型インフルエンザや SARS が流行した時もマスク不足が問題になった。今後については、各自が準備するよう常に啓発が重要。マスクの備蓄、手洗い・うがいの励行を継続して周知していくべきである。
- ・健康づくりに関しては、市が積極的に生活・食習慣に踏み込み、健康増進を図ることが必要である。
- ・高齢者の健康づくりについては、継続性が大事である。
- ・食育事業では、生産からが食育であるとの認識のもと、他の政策とも関連性を持たせることも重要である。
- ・感染症対策ということでは、本施策にとどまらず、他分野の節々に盛り込むことも重要である。
- ・自殺者に関する指標は、人数の増減という受け身の指標ではなく、研修を受けた人など、プラスとなっていく指標ではどうか。
- ・感染症対策の指標で、「感染予防（拡大防止）実践項目数」とあるが、この指標であると、現在がMAXで、今後落ちていく指標になってしまうのではないか。

○施策 6-1 人権尊重の推進

- ・以前は、政策 3 の教育・文化にて取り組んでいたが、全ての政策の根底にある政策として位置づけるため、政策 6 変更することに異論はなし。
- ・人権については、意識の醸成が大切。鴻巣市では、パートナーシップ宣誓制度や性的マイノリティに関する悩み相談など先進的な取組を進めている。受け身ではなく、積極的に情報提供・発信に力を入れるべきである。
- ・「人権尊重意識の醸成と人権教育の推進」と変更になるが、教育＝学校というイメージはあり、学校における人権教育については、強い取組を進められたい。

○施策 6-4 効率的な行財政運営の推進（DXの推進）

- ・市役所は、サービス提供の発信側であるが、受け手側の理解度・利用度の状況確認が必要である。
- ・市の行財政・マネジメント部分に関して市民への還元が見える化することは難しいが、DXを推進することで、達成部分での市民生活への還元が見えるようになる。
- ・公共施設について、利用料の改定などを適切に行い、健全財政を維持していくことも重要である。

分科会③

○施策 3-1 防災・減災対策の推進

- ・施策の成果指標である「市民、地域、行政が連携した防災・減災体制に安心感を持っている市民の割合」について、前期基本計画の目標値より、後期基本計画の

目標値が下げるとするのは説明が難しいのではないか。

・市民の立場として、令和元年東日本台風を契機に災害に対する危機感が高まっている。そのため、いかに災害に対する不安を払拭していくのかということが求められている。防災倉庫への適正な備蓄物資の整備も重要なことではあるが、直接市民の安心に繋がるような水害ハザードマップの改定及び配布、豪雨の時の防災無線以外の情報伝達ツールの整備、荒川上流河川事務所が中心となって実施する広域避難の対策など、しっかり取り組んでいることをアピールできるといいのではないか。

・「自助」「共助」「公助」「情報伝達」「消防体制」という基本事業の構成について異論はない。

○施策 3-3 循環型・脱炭素社会の形成

・市域からの CO2 の排出を見ると、産業部門・業務部門・家庭部門・運輸部門で構成されているが、市民に絞った取組が強いと感じられるため、事業者・行政も一体となって市全体で取り組んでいくことを示した方が良い。

・再生可能エネルギーの活用の指標が市民の割合から容量に変更したことでイメージが湧きづらくなったが、どういう意図で変更したのか。

← ゼロカーボンに向けた取組として、現在、蓄電池を購入した方に補助金を出しているが、太陽光パネルと蓄電池をセットで購入している家庭が多いことから、今後、太陽光パネルも含めて補助金を出すことを検討しており、導入容量の増加を目指していくという指標に変更した。

・市民として、粗大ごみの出し方について不便に感じることもあるため、利便性も考慮して欲しい。

分科会④

○施策 4-5 花と緑あふれる空間の創出

・小学生が遊べる地域の公園が少ないと思う。幼児向けの遊具だけではなく、小学生以上向けや高齢者向けのもの（健康遊具）についても充実されたい。

・公園・緑の保全を市民協働で行っていくという部分を市として強く打ち出していった方がいい。

・都市宣言で「花と緑」を掲げているが、中途半端で弱いと感じる。観光とも関連してくるが、PR等を含め、イベントや事業をもっと大きく展開していく必要があると思う。

・花のまちを形作っていく上では、市民の協力が不可欠である。特に若い世代のボランティアへの参加を促すなど、市民意識を高める取組が重要であると考えます。

・コウノトリの取組に関し、豊かな自然環境の保全の重要性は認識しており、指標としても適正であると考えます。そのうえでは、水辺環境を広く形成していかなければならないが、それには、鴻巣市だけではなく、近隣自治体と認識を共有し、協働で取り組んでいく必要があると思う。

	<p>○施策 5-3 観光資源の活用と交流の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 施策の指標として「観光客入込客数」を設定しているが、これについては意味がないと思う。関係人口という観点からも、繰り返し来てもらえるようにすることが重要となるので、例えばアンケートを取るなどして「イベントの満足度」を測り、それを指標とする方が適正であると考えている。 ・ 現状はイベント観光が中心となるが、年間を通して来訪してもらえるようになるのが理想である。そのためには、施設整備も含めて進めていく必要があると考えている。そういった意味では、整備予定の道の駅をいかに充実させるかという視点も大切であると思う。 ・ 駅からまちを回遊させる仕組みが必要である。例えば、まちなかの回遊マップの作成や、駅で周辺を案内できる観光案内所等の取組など。
<p>配布資料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第4回鴻巣市総合振興計画審議会次第 ・ 第3回審議会議事録 ・ 【資料1】 これまでの振り返りと本日の審議内容について ・ 第6次鴻巣市総合振興計画後期基本計画（案）